

ペットはその種によって、習性や寿命、生活環境や必要な世話が大きく異なります。一般的なペットである犬やねこでも、その本能や習性を知らないで飼っている人は少なくありません。飼う前に、本で調べたり、ペットショップで聞いてみるなどして、信頼できる情報を集めましょう。同じ種類や品種のペットを飼っている人に話を聞いたり、実際に世話をさせてもらうと、具体的にイメージがつかめます。

また、生き物ですから当然個々の性格の違いもあります。購入したりもらってくる前に、オーナーにその個体の個性についてきいてみたり、親やきょうだいを見せてもらうとある程度予測をすることができます。

広告や書籍の中には、「飼いやすい」「おとなしい」「利口」などいいことばかり書いてあるものがありますが、どんなペットにも、長所と短所はありますし、飼う方のライフスタイルによって長所が短所になったりその逆もあります。簡単に飼える生き物などありません。流行や見た目、イメージなどで選んでしまうと、後でとんでもない苦勞をする羽目になりかねませんから、その習性や本能、生態、必要な施設・設備などをきちんと調べ、自分に飼えるのか冷静に判断することが必要です。



数年前、鳴き声もなく毛も飛ばず、散歩の必要もないので、集合住宅でも飼いやすいということで、爬虫類の飼養がブームになったことがありました。中でも、グリーンイグアナは、植物食なので餌の管理がしやすく、店頭に並んだ幼体のエメラルドグリーンさのきれいな色や、20cmほどの小さな体のかわいらしさもあり、ちよつとした人気となりました。しかし、流行と同時に、紫外線不足や栄養障害で病気になるようになったグリーンイグアナの幼体が動物病院に連れてこられるようになり、数年後には数十cmもある成体のグリーンイグアナが道端などに捨てられているのが発見されるようになりました。グリーンイグアナは熱帯地方原産で、高温の環境と多くの紫外線が必要です。中緯度地帯にある日本でも飼うには、専用の温室と紫外線発生装置が必要ですが、餌も多種類の野菜をバランスよく与えなくてはなりません。また、成長すれば1m近くにもなり、顎や尾の力も強くなります。飼いはじめの前に、どんな施設が必要なのか、何を食べるのか、どのくらいの大さきになるのかなどを調べておけば、不十分な管理が原因で病気になるなど、大きくなりすぎたからと遺棄されるグリーンイグアナはいなかったはずなのです。

爬虫類ブームとグリーンイグアナ

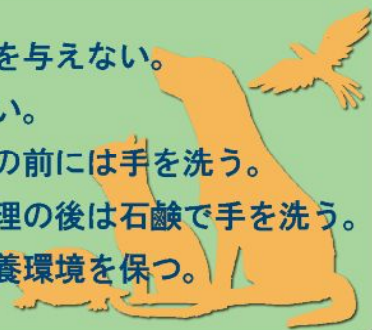
column

人と動物との共通感染症とは、動物から人へ、人から動物へお互いに感染する病気のことです。世界では200種類以上が確認されていて、そのうち約60種類が日本国内でも発生しています。

長く人と共に暮らしてきたペットである犬やねこなどの場合は、病気の種類や治療法も分かっているものが多く、過度に恐れることはありません。一般的な衛生対策を守れば、ほとんどの病気は予防できます。

一般的な衛生対策

- ・口移しや同じ食器で食べ物を与えない。
- ・キスなど過剰な接触をしない。
- ・ペットに触った後と、飲食の前には手を洗う。
- ・排泄物はすぐに片付け、処理の後は石鹸で手を洗う。
- ・ペットの健康と衛生的な飼養環境を保つ。



人と暮らした歴史が浅い動物や野生動物は、まだ治療法が確立していない病気や未知の病原体を持つ可能性もあります。特に、乳幼児、高齢者など、家族に抵抗力の弱い人がいる場合は、珍しい動物や野生動物の飼養には慎重な判断が必要です。

また、カメなどの爬虫類は食中毒の原因となるサルモネラ菌をもっていることがあるので、乳幼児のいる家庭や幼稚園などで飼うには不向きです。一般家庭でも、水槽を調理場所の近くに置かない、カメや水に触った手で食品に触れない、触った後には石鹸で手を洗うなどの注意が必要です。

自分の飼おうとする動物に、どんな人と動物との共通感染症があるか調べて、適切な予防策を講じましょう。

狂犬病は人と動物との共通感染症の中でも治療法がなく、発症すると100%死亡する危険な病気なので、犬への毎年のワクチン接種が飼い主に義務付けられています。